

Global Challenge Forum 2024 WINTER シラバス

担当教員	園山 千里 教授 (担当メジャー: 文学、日本研究)
講座タイトル	文学にみる自然の声
講座タイトル (英語)	Voices of Nature in Literature
講座概要	皆さんにとって文学は身近なものでしょうか。何をもって身近であるかは人それぞれだと思います。この講座では文学に親しみ、言葉について丁寧に語り合い、内に秘めた豊かな想像力を育むことを目指します。テーマは文学にみられる「自然」に着目することです。どのような「自然」があると思いますか。さまざまな観点から文学における「自然」について考えてみると、文学と皆さんの日常とが結びついていることを感じる一瞬があるはずです。小さな発見や驚きを積み重ねながら、「自然」と人間とについて考えていきます。ひとつひとつの言葉にじっくり耳を傾け、深く豊かな世界を経験してみませんか。また、文学を通じて環境問題についてもふれていきます。分野を横断する学術的探求の面白さを少しでも感じることができ、これからの皆さんの希望あふれる将来設計に少しでもお役に立てれば嬉しいです。
学修目標	文学を通じて身近な「環境」に関心を持ち、ディスカッションを通じて自分の思考を深めていきたいです。また、創作の喜びを実感することで、より豊かな体験ができればと考えています。
開講言語	日本語
定員	25名
対象学年	高校1,2年生
使用テキストなど	読み物はPDFにしてお渡しします
時間外学習の内容	2回目の授業はディスカッションのため、お渡しした読み物を事前に読んでおいてください。よく読んでおくとディスカッションが楽しくなります。4回目は個人発表に向けて事前準備が必要となります(詳細は授業中に説明します)。
1回目 (2024/12/14± 14:00-15:30) タイトル	私たちの身のまわりの「環境」とは？
内容	日頃、皆さんが感じている環境問題とはどのようなものなのでしょうか。近年、「環境人文学」という文学・哲学・歴史・人類学・人文地理学・考古学などの各分野が交わる協働研究がおこなわれています。環境問題と一言でいっても、さまざまな複雑な問題が絡み合い、一つの分野だけでなく複数の分野が積極的に関わって問題を解決することが、世界では求められているのです。授業では、文学を中心として、文学作品にはどのように「環境」が描かれ、私たちはどのように読むのか、考えていきます。主に日本文学を中心としながら考えていきますが、日本語に翻訳された海外の文学作品も多く紹介します。
2回目 (2025/1/18± 14:00-15:30) タイトル	「みどり」のイメージについて語ろう
内容	吉本ばなな『みどりのゆび』とモーリス・ドリュオン『みどりのゆび』を読解します。モーリス・ドリュオンはフランスの作家で、パリに生まれましたが、戦争を機にイギリスに渡ります。原作『みどりのゆび』は1957年に子ども向けの作品として出版されました。日本では『みどりのゆび』として1990年に日仏合作でアニメ作品にもなっています。吉本ばななとモーリス・ドリュオンの二つの作品について感じたことや考えたことをディスカッションしていきます。そして、皆さんにとって「みどり」とは何か、「みどり」の持つイメージについても考えていきます。
3回目 (2025/2/8± 14:00-15:30) タイトル	日本の「自然」と文化を知ろう
内容	時代をだいたい遡って主に平安時代の文学の話をしていきます。平安時代にできた『古今和歌集』『枕草子』『源氏物語』などの作品にはどのような「自然」が描かれるのでしょうか。「自然」について考えていくことは、日本文化についても考えることに繋がってきます。千年以上前の日本古典文学は大変古い時代のもので、不思議にも現代に生きる私たちの生活や感情にも繋がってきます。古典文学を身近なものとして感じるひとときになりたいと思います。
第4回 (2025/3/15± 14:00-16:00) タイトル	詩を作ってみよう
内容	授業のまとめとして「自然」をよんだ和歌を詩にしてみます。古典短歌の読解から始まり、詩を創作するよこびや難しさを感じるまでの、一連の流れを通して文学の楽しさを感じてもらえれば嬉しいです。また、皆さんひとりひとりの発表を聞きながら、自然とは何か・人間とは何かを考える機会になることでしょう。発表は個人でおこなうため、発表の内容や方法について不安を感じる方もいるかもしれません。ICUの学生や担当教員もサポートしますから心配せずに、楽しみながら創作に挑戦して欲しいです。
参考文献	特にありませんが、授業中にいろいろと文献は紹介しますので、興味を持ったら読んでみてください

Global Challenge Forum 2024 WINTER シラバス

担当教員	有元 健 上級准教授 (担当メジャー: メディア・コミュニケーション・文化、ジェンダー・セクシュアリティ研究)
講座タイトル	メディアの力を考えるー記号から情動へ
講座タイトル (英語)	Thinking on the power of Media: from sign to affect
講座概要	私たちは日々、さまざまなメディアに接しながら生活しています。新聞やテレビ、インターネット、SNSを通じて、天気予報や日々のニュース、スポーツ中継、ドラマ、さらにはCMなどに触れています。現代社会では、情報の入手とコミュニケーションはメディア技術と切り離せなくなっています。それでは、私たちがメディアから発信される情報に触れ、それをどのように認識しているのでしょうか？また、メディアの情報は私たちにどんな影響を与えているのでしょうか？この講座では、テレビCMやスポーツ放送、YouTube動画など具体的なメディアコンテンツを題材に、メディアの情報が人々にどのように認識されるのかを探っていきます。
学修目標	メディア論の基礎知識を学ぶことで、柔軟なメディアリテラシーを身につけていきたいと思います。
開講言語	日本語
定員	30名
対象学年	高校1,2年生
使用テキストなど	テキストは使用しません。
時間外学習の内容	身近なメディアコンテンツを読み解く。
1回目 (2024/12/14± 14:00-15:30) タイトル	言語、この恣意的(arbitrary)なるもの
内容	第1回講義では、記号論の基礎となるスイスの言語学者フェルディナン・ド・ソシュールの理論を学びます。ソシュールは言語を「恣意的な差異のシステム」として捉え、その考え方を理解することで、記号論に基づくメディア分析の土台を築いていきます。
2回目 (2025/1/18± 14:00-15:30) タイトル	記号とイデオロギー
内容	第2回の講義では、フランスの文学者ロラン・バルトのイデオロギー論と、同じくフランスの社会学者ジャン・ボードリヤールの消費社会論を紹介します。これらの理論を現代の具体的なメディアコンテンツ (テレビ放送や広告) 分析に応用し、メディアが持つイデオロギー機能についての理解を深めていきます。
3回目 (2025/2/8± 14:00-15:30) タイトル	メディアと情動
内容	第3回講義では、21世紀に入りさまざまな学問分野で注目されている「情動」に焦点を当て、メディアコンテンツを読み解いていきます。現代のメディアは、言語的な説得よりもむしろ情動的にオーディエンスを刺激する力を強めています。このようにメディアの力が「記号」から「情動」へと移行している状況について、理論的かつ具体的に考察していきます。
第4回 (2025/3/15± 14:00-16:00) タイトル	2020東京オリンピックからメディア生態系の変容を考える
内容	今世紀に入り、人々の情報入手やその反応の仕方は大きく変わっています。新聞やテレビといった時空的に固定されたメディアに接する機会が減り、情報はスマートフォンの画面上に現れてはすぐに消えていく流動的なものとなっています。さらに、オンラインプラットフォーム上で自由に反応できるようになりました。このような状況の中で、人々の行動はどのように変化しているのでしょうか。本講義では、2020年の東京オリンピックを題材に、現代におけるメディア生態系の変容について考えていきます。
参考文献	

Global Challenge Forum 2024 WINTER シラバス

担当教員	岡野 健 教授 (担当メジャー：物理学・環境研究)
講座タイトル	ダイヤモンドってどんな物質？ダイヤモンドって作れるの？
講座タイトル (英語)	What is diamond? Can we make diamond?
講座概要	ダイヤモンドは宝石の王様として知られていますが、宝石としての素晴らしさだけでなく、さまざまな特徴を持っています。この講義では、ダイヤモンドがどんな物質なのか、そしてどのように作られるのかをお話しします。また、私が行ってきた研究の一環として「電気の流れるダイヤモンド」の作り方をご紹介し、この方法で作ったダイヤモンドが、地上に存在する他の物質とは異なる興味深い特徴を持っていることをお伝えします。さらに、これらの研究成果を基にグループディスカッションを行い、研究とはどのようなもので、なぜ研究が大切なのかを参加者の皆さんと一緒に考えていければと思っています。
学修目標	ダイヤモンドの科学的な素晴らしさをお伝えしながら、研究の本質が「個々の人間の興味の探究」であることも伝えたいと思います。教科書で学ぶことだけでは、研究の深い本質には到達できないということを、皆さんと一緒に考えていければ嬉しいです。
開講言語	日本語
定員	30名
対象学年	高校1,2年生
使用テキストなど	特になし
時間外学習の内容	特になし
1回目 (2024/12/14± 14:00-15:30) タイトル	ダイヤモンドってどんな物質？ダイヤモンドって作れるの？
内容	ダイヤモンドと聞くと、輝く宝石を思い浮かべる人が多いでしょう。それは確かにダイヤモンドの大きな特徴の一つですが、実は他にもたくさんの興味深い特性があります。最初の講義では、ダイヤモンドを科学的な観点からどのような物質なのかを説明します。また、ダイヤモンドは人工的に作れないと思っている方もいらっしゃるかもしれませんが、現代の科学の力を使えば、正真正銘のダイヤモンドを作ることができるのです。そのことについてもお話しします。
2回目 (2025/1/18± 14:00-15:30) タイトル	電気の流れるダイヤモンドの作り方
内容	ダイヤモンドは通常「絶縁体」として知られ、電気は流れません。しかし、ダイヤモンドを作る際にホウ素やリンといった「不純物」を加えることで、電気が流れる性質が生まれることがわかっています。第2回の講義では、「電気の流れるダイヤモンド」の作り方をご紹介し、得られた物質がこれらの不純物を含むダイヤモンドであることを科学的に証明していきます。
3回目 (2025/2/8± 14:00-15:30) タイトル	電子を放出する不思議なダイヤモンド
内容	ダイヤモンドの表面では、「電子親和力」が負であることが報告されています。この特性は他の物質ではほとんど見られないため、非常にユニークです。この特徴を活かすことで、これまで製作が難しいとされていた新しい電子デバイスの開発が可能になります。3回目の講義では、ダイヤモンドを作る際に「不純物」として窒素を加えることで、「負の電子親和力」を活用した現象が観測されることをご紹介します。
第4回 (2025/3/15± 14:00-16:00頃) タイトル	グループディスカッション
内容	3回目までの講義内容を踏まえ、研究に関する補足説明を行いながら、研究の本質が「個々の人間の興味の探究」であることをお伝えしたいと考えています。教科書での勉強だけでは、研究の深い本質には到達できません。この点について、参加者の皆さんと共に考え、共有できればと思っています。
参考文献	特になし